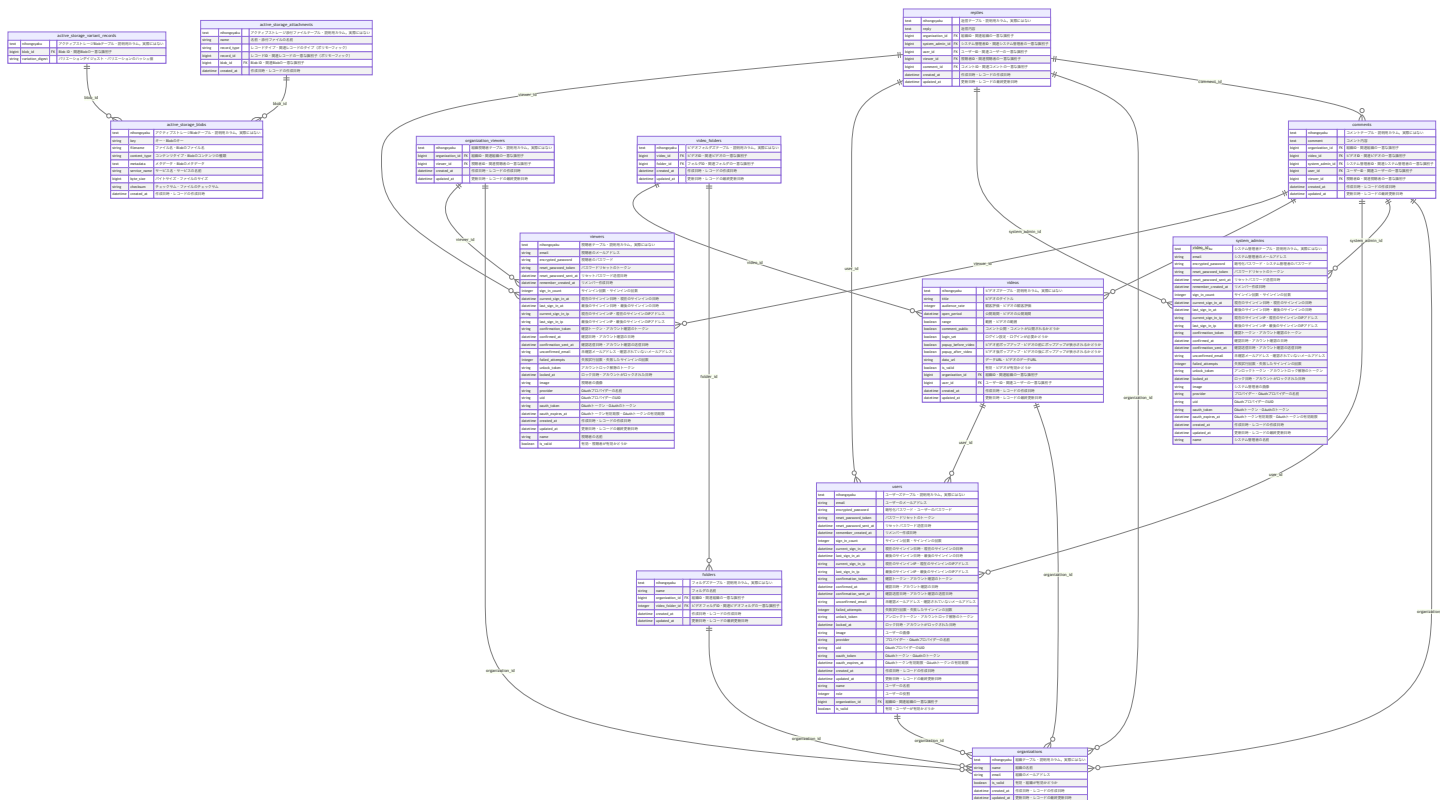


## レコブルER図



## Docs

最新HotなER図を手元に置いておくために

**ER図を含め、ドキュメントが開発に遅れることがないように。**

前提として**Markdown Preview Enhanced**というvsコードの拡張機能を入れてください。

## ER図自動生成コマンド↓

```
docker-compose run --rm app node bin/generate_er_diagram.js
```

このコマンドにより、まず、`Total_ER_Diagram.md`が生成されます。

付随してエンティティのみを検出した`Total_E_Diagram.md`とリレーションのみを検出した`Total_R_Diagram.md`が生成されますが、あくまで、参考程度です。

この`saishin_ERD_v0.8.0.md`はjsで自動で検知されたER図を手動で手直ししたものです。バージョンと年月日も入れておき、いつの時点かわかるようにしておきました。

このER図は主に、テーブル名、カラム名、外部キーをスキーマから検出しました。

しかし、ポリモーフィックなどの複雑なリレーションは`models`や`active_record`から検出する必要があり、当プロジェクトでは、まだポリモーフィックは少ししかありませんが将来的にはありうるかもしれません。(active\_storage\_attachmentsにポリモーフィックあり。)

既存のgem 'rails-erd' # グラフ形式でER図を生成するgem、、、はポリモーフィックがある場合では、循環リレーションの深度が深すぎて、エラーになり、検知できません。そこで、エンジニアの手元に、最新、ホットなER図を手元に置いておきたい、という趣旨から、jsでスクリプトを組みました。

マーメイドとマークダウンの組み合わせで、ER図とリレーションの一覧表を作成するようにしています。

今回は、複雑なリレーションをjsで完璧に取り切るのは困難なので、基本的な大枠の構造を掴む一助にするスタンスでご活用下さい。

この複雑なリレーションについては、一つ一つ手動で、追加する方法が逆に一番楽、と推察します。

ER図につき、カラム名の後に、非エンジニアでも大枠がわかるように、コメントを追加しておきました。

このことにより、自分の実装を、この最新のER図を見ながら、ご説明いただければ、どの辺のことを、どう変えているのかが、一目瞭然化でき、コミュニケーションコストの大幅な削減、コミュニケーションのズレの早期発見に寄与すると信じます。それが、このツールの真価であり、エンジニアの開発体験の大幅な向上を目指したチャレンジです。

また、他エンジニアが行った改修や新機能も、アプリ全体の中のどの部分にかかわることなのか、が掴みやすくなり、何を言っているのかわからなかった、何を言いたいのかわからなかった、という不要なストレスを大幅削減できます。これにより、エンジニアの開発体験を向上することができ、非エンジニア、エンジニア両者がwin-win、エンジニア同士win-winも、となれば良いと思いますのでぜひ使ってみてください。フィードバックもください。(お手柔らかに)

メタデータカラムとしてtext nihongoyakuを使用する理由と注意事項

背景と目的

本プロジェクトでは、ER図におけるテーブルの説明を日本語で提供するために、説明用カラムとしてtext nihongoyakuを使用しています。このカラムは、実際のデータベースには存在せず、説明目的のメタデータです。これにより、関係者がテーブルの役割や内容を直感的に理解できるようにしています。

text nihongoyakuの選定理由

実際に存在し得ないことの強調

descriptionなど一般的な名前を使うと、実際のデータベースに存在し得るため、text nihongoyakuを選定しました。これにより、説明用であることを一目で理解できます。

説明カラムとしての特殊性の明示

nihongoyakuという言葉自体が「日本語訳」を意味し、説明用カラムであることを強調しています。他の開発者が誤解することなく、説明用メタデータであることを認識できます。

コードとドキュメントの整合性

text nihongoyakuを使用することで、コードとドキュメントの整合性を保ち、データベース設計を理解しやすくします。実際のデータ構造に影響を与えないことが明確です。

使用上の注意

**データベースには存在しないことの明示**

text nihongoyakuは実際のデータベースには存在しません。あくまでER図上でのメタデータです。誤ってデータベーススキーマに含めないように注意してください。

**説明の一貫性**

すべてのテーブルに対してtext nihongoyakuを使用し、テーブルの役割を一貫して説明してください。これにより、ER図全体の理解が統一され、開発者が構造を把握しやすくなります。

**ER図生成ツールの対応**

text nihongoyakuカラムはER図生成ツールで説明として扱われることを前提としています。ツールの仕様を確認した上で使用してください。

**v0.8.0**ではカラム名と、仕様書の完全なる一致までは到達していません。手動で地道に対応する予定です。

建設的、積極的なご提案、ご貢献があれば、お願いしたいです。いつでも最新HotなER図！